

【トラック 3】

バックで交互にセックス。ママが帰って来てはれないよう声を殺してセックス

(ゆき声の向き：右 距離：普通)

(りお声の向き：左 距離：普通)

ゆき

「んふふ、先生…

じゃあ、今からいっぱい気持ち良いこと教えてあげますからね？

私たちがあ、忘れられない筆下ろしにしますよ♪

だから、んしょっ、

さ、まずはゆきのおまんこにそのぶっといおちんぼ、いれてちゃってください♪

ゆきはこうやってベッドに寝てますから♪」

りお

「ええー、ゆきからすんのお？

だめだめえ、私も先生とセックスしたいよおー。

ねえ、先生りおと先にセックスするでしょ？」

ゆき

「りおはさっき先生のおちんちんにフェラチオしたでしょう？

だから今度は私の番ー。

ねえ、先生、ゆきとセックスしますよね？」

りお

「やーだー！先生の童貞はりおが貰うんだから！

先生、先生の童貞、りおにちょーだい？」

ゆきりお

「先生、どっちとセックスするの？」

りお

「…え？ どっちとも…？」

ゆき「はあ、2人とも…手をついてお尻を先生の方に突き出す…？

こう、ですか？ んっ…これ、は、恥ずかしいです…」

(りお声の向き：正面 距離：普通)

りお

「ゆきとりお、お尻の穴もそっくり…？」

や、やだあ、そんなところ見ないでえ…。

ああ…っ、恥ずかしくて、お尻の穴ひくひくって、動いちゃうよう…。

ひゃあ…っ！ お尻の穴、触っちゃいやあ…あ…あ…っ

あ…や、先生のおちんぽ、お尻の穴に当てないで…っ

変な感じするう…っ」

ゆき

「やあ…先生、ゆきのお尻の穴のしわの数…数えないでください…っ、  
んん…生意気たくさん言ったこと謝りますからあ…っつ。

先生からお尻をじっくり見られてると思うと…

おまんこから勝手にあ、愛液が溢れてきます…っつ。

おまんこが、先生欲しいって言ってます…。

ああ、先生欲しい。おちんちん、欲しい。欲しいです…！

先生、お願いします。

おちんちんを…ゆきのおまんこに入れてください…っ

お願い…挿れてください。

後ろからいっぱい突いてください…っ」

りお（囁き）

「先生、ゆきとりお、ちゃんと交互に入れてね？」

え？ コンドームはなしでいいよ♪

初めてだもん、生ハメきめちゃお♪」

ゆき

「ありのままの先生を入れてください…っ

あ…入ってる…先生のがずぶずぶって入ってくるう♪

ああ、奥の奥までえ、ずぶずぶ…ずぶずぶってはいっていつてるううう♪

あ…ああ…んん…あああ…はああああん……っつ。

は、入ったあああ。はあはあ。はあはあ、はあん…ん…」

りお（囁き）

「わー、先生のおちんぽ、りおのおまんこにゼーンが入っちゃった。  
ふふ、どーですか？ 教え子の生おまんこは？ 気持ちいいですかー？  
ふふ、言葉もないって感じみたい、先生かわい♪ ゆきはどーお？」

ゆき

「はあ、はあ、ああ♪ ああ、すごいです♪  
ゆきのおまんこの中、先生のおちんちんでいっぱいです。  
はあはあ、先生、どうですか？  
初めての生ハメ、しかも教え子にバックから入れてる気持ちはどーですか？」

ゆき

「ふふ、キツキツで、JKのマンコだと思えば、  
すごい興奮しちゃってもう出しちゃいそうなんですね、ふふ、可愛いです♪  
えー、私は、先生とエッチできてすごい幸せですよ～♪  
だからあ、動いていいですよ先生、いっぱい動いて下さい♪  
…んっ、はあっ、あっ、ああっ、はい、そうです、先生、一杯動いてっ♪  
あっあっ、あっ、  
先生、先生…私の先生…っ♪  
ああっ、すごっ、どんどん腰の動きがはやくなってくるっ♪  
ゆきの名前呼びながら、ガンガンついちゃってる♪  
ふふ、いいですよ、初めてだから、気持ち良すぎて腰がとまらないんですね。  
たーぷりゆきのおまんこ味わって下さいね♪  
ああっ、もっと激しくなって♪  
あっあっあっあっあっ♡  
先生っ、先生っ！先生っ！  
ああっ、はいっ、私も、私も好きっ！ 好きです！  
先生のこと好きだから生ハメも大丈夫です、中出しもちろんオッケーです  
から、だから、いっぱいっいっぱいゆきの中で気持ち良くなって下さいねっ♪  
ああっ、先生、先生っ♪」

（りお声の向き：正面 距離：普通）

りお

「もぉ、先生、ゆきばかりズルイ。  
りおのおまんこにも、先生のおちんぽ挿れて♡  
やったあ」

ゆき

「ん、ああ、はあっ……ん、抜けちゃった」

りお

「わーめっちゃドキドキするう。

ン……あ……、入って、きたあ…つつ

んんんん…、んんんん…、きたきた♡

メリメリって…来てる、来てるよおっ

お…オ…♡

先生の童貞ちんぽきたああ♡

ふふ、ゆきで筆下ろしなんて許さないからね、

先生はだからまだドーテーなんだよ♪

にしても、はあはあ、でかあ…先生の大き♪

ああ、ゆき、こんなのいれられてたんだあ、

ああ、教え子のマンコ、

JKの口リマンコ拡張するようにズイズイ奥まで入ってくるう♪

ああ、でも、すごいけど、先生はりおのものなんだからね。

先生が入れてるんじゃないくてあくまでりおが入れさせてあげてるんだから！

だから、りおが先生を支配してるの！

だからー、動くのはりおが合図してから！ わかった？

ふふ、じゃあ、良い子にして動かしてみて？

ん、そうそう、あ、ああっ、上手上手っ、ああっ、先生上手だよおっ、

ああんっ、良いところにあたるうっ♪ ああっ、あああ、嘘お♪

こ、こんなの、…あっ、あっ♡

あんっ、あんっ♡ ああっ、めっちゃいいこれえ♡

先生のおちんぽやばいよおっ♪ あああ、まじやばあ。

これハマリそう♡あっ、いいっ、先生やるじゃん。すごいつすごいよおっ♪

ああっ、先生がつついてきた、りおのこと好き好きいつてきたあ♪

あんっ、あたしもあたしも好きだよおっ♪

あっ、あっ、どお？ゆきよりいいでしょ？

あっ、あっ、ゆきとりおのおまんこ、どっちがいいか確かめて♡

たっぷり生ハメで、あたしとゆきの姉妹の教え子マンコ確かめて♪

あんっ、ああっ、ん、そうそう、そうやって確かめて♪

あはっ、先生すっごい気持ち良さそっ。

ふふ、気持ちいいのは、もちろんりおのおまんこ、だよな？ 先生？♡

えっ、どっちも？ 比べられない？ それどころか、もう腰が？  
え、うそっ、まだ激しくなっつ、あっ、ああっ、ひ、ひいいんっ。  
ああっ、らめっ、こんなの、ああ、すごいつ、しゅごいよ…っおっおっおっ、  
いいいい…やばあ…あっあっあっあっあっあっ  
先生っ、先生！…ああっ、はあはあはあはあはあはあはあはあ…  
先生っ、あっ、ああっ…ん、んん♡  
(挿入抜ける) あああっ♡  
(挿入終わり息が荒い) はあ…はあ…はあ…はあ…」

ゆき

「ねえ、先生♡ またゆきにも挿れて欲しいです♡  
ねえ先生お願いしますう、  
もうさっきからオマンコ疼いて疼いて仕方ないんですう、だからあ♪  
(挿入) んっ、ああっ、先生のがまたっ♪  
あああああっ、いい、いいですう。  
先生の生おちんちん、すごい気持ちいいですうっ、あああ、いい、いいいつ。  
ずっとこうしたかった…はあはあ、  
はいっ、ほんとです。ど、どれくらいかって。  
え、えっとそれは。  
じ、実は、先生のこと思って」

りお

「え、ゆき、それはっ！」

ゆき

「ちゃ、ちゃんといわないとなんですね。  
先生のこと思ってりおとふたりで、お、オナニーしてたときもありました」

りお

「あうう」

ゆき

「あ、すごい、先生のさっきより太く大きくなって。  
はい、ずっとずっと先生のことを思って、  
りおと2人でオナニーしてたんですう。  
だから、はああ…っこのままっ、りおとゆき、交互に突いてっ」

りおゆき

「あっあっあっあっ、あんっ、あんっ、  
はあはあ…はあはあ…はあっ、はあっ、はあはあ…っああんっ  
んん…あ、あ、あ、あ、ふううん…っ  
ああんっ、ああ……あ…あ…あ…あ…あ…  
はああああ…ひ、いいい……あは、ん……  
ほお、お、おお…お…ん…  
はああ、はあ、ああ、ああ、ああ、あ、ああああ、ああ、  
ん…く…っ、ふっふっ、ひっ、ふっ、うっ、んっ…  
んん…ふう…はあはあああんっあっ、ああっ！あっ」

SE 玄関のドアが開く音

(ママ声の向き：右 距離：遠く)

ママ

「ただいま～。ゆき～りお～、ちゃんと勉強してる？」

ゆき

「マ、ママ…?! (ピストン止まらない。声我慢して)  
ど、どうしよう、ママ帰ってきた…みたい…はあ、はあ」

ママ

「ゆき?…りおー?いるの～?」

ゆき

「…は…ああ、う、うん…、ママ。。  
ゆきもりおもちゃんと…勉強…してるううう♡…よお…はあ…」

ママ

「そーなのねー?りおもいるのよねー?ちゃんと勉強してるのー?」



ふうふう、…ん…んん…  
ふうふう…ふうふう、はあ…  
はああああ…ん…んん。んっんっんっ  
んっんっんっ  
はあはあはあはあはあはあ…っ  
はああああっ、はあっ、はあっ、はあっ、  
あ…っ んっんっんっんっんっんっ」

ゆき

「あっ、あっもうすぐ、出るんですか？出るんですね？  
いいですよ、生徒にからかわれてその気になって、  
隣にママがいるのにかかわらず、  
無責任に中出ししちゃう先生が大好きですからっっ出して♡ゆきに出して♡」

りお

「あ、そんな激しいのだめ。だめ。だめえええ。  
出ちゃう。声出ちゃううう。  
すぐそこにママがいるのにい…  
ああああっ、出るっ、出るっ、声出るうう  
こんなん反則う…あんっっ、先生のばかあ、先生の変態口リコンちんぽっ、  
ばかばかっ、あっ  
あっあっ、あん、せんせっ、そこっ、  
あっ、だめ、りおに出して、せんせっ、  
出して出してっ  
は、あ、あ、いく…イクイクイクイク…っ」

りおゆき

「(声殺すのはやめて、我慢できず普通の喘ぎ声に戻る)  
ああああっ、はあ、はあ、はあああ、んっ、ふうっ、  
りお(ゆき)に出してっ、  
せんせっ、あ…っ、はあ、はっ、あん…あっ、あっ、あっ、あっ、  
イっちゃう…イクイクイクイクイク…いくうううううううう、  
はああああああん…っっっ！～～～～っっ！(絶頂)  
…はあはあ。…はあ…はあ。」



りお

「はぁはぁ…すごお…ゆきとりお、どっちにも射精してくれたんだね♡  
せんせー、やればできんじゃん♡  
ちょー上手。りおが花丸あげる。んんーちゅ♡」

ゆき

「はぁはぁ…射精してくれて嬉しいですう…  
先生の精子がゆきのおまんこの中いっぱい…あったかくて幸せです。  
たくさん射精してくださりありがとうございます。  
先生、よくできましたね。満点です。んんーちゅ♡」